

# 良導絡ダイナミック・キネシオン療法を用いた骨粗鬆症の1症例について

クルメ東洋医療研究所<sup>1)</sup>

まえだ内科<sup>2)</sup>

久留米大学医学部麻酔学教室<sup>3)</sup>

石津 博行<sup>1)</sup>・石津 達哉<sup>1)</sup>・前田 繁男<sup>3)</sup>

無敵 剛介<sup>3)</sup>

1960年の初めに、J. グッド・ハート DC (USA) が筋肉の活性化生理を適用し、良い姿勢と健康への本質的な筋肉のバランスを回復させると言う、新しい考えを発表した。

このことを APPLIED KINESIOLOGY (応用運動機能治療学) といい、各種の筋肉検査法と反射テクニックを応用し、或いは《東洋医学》の基本理論を利用して疲労衰弱した筋肉に、半導体金属粒子の貼付や、食品の正しい摂取により組織へのエネルギーの流れを回復させ、筋肉全体のバランスを取りながら治療して行くのである。

半導体金属粒子の効果としては、そのイオンを利用し、筋肉運動力学の原理に基づき神経リンパ・神経一脈管・反射点或いは、経絡の興奮鎮静の経穴、又は一定期間疲労衰弱した筋肉の特定部位に、半導体金属粒子を貼付しそのイオン作用により、弱い筋肉を強化し、組織エネルギーの流れを良くし、元の正常な筋肉状態に戻し、筋肉間の不均衡を矯正し、自然治癒力を高めるものである (図1～2参照)。

## ダイナミックキネシオン手順

1. 姿勢分析——立地、座位、歩行。
2. 運動分析——どの運動が痛いか。
3. 筋力テスト
4. T・L (リンパ反射、経穴)
5. Ge 貼布 (右図参照)
6. 再筋力テスト
7. 運動チェック
8. 頸・胸・腰・他関節部位 T・L
9. Ge 貼布
10. 再運動チェック
11. 再チェック・治療確認

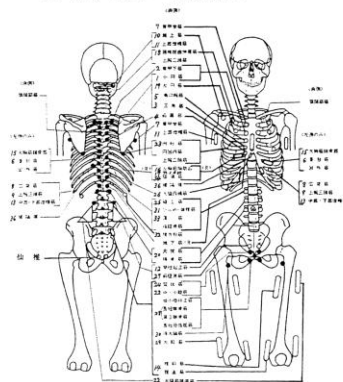


図1 神経・リンパ反射図

実際には筋肉のみ治療をしているのではなく筋肉が正常になれば関連した、すべての組織器官への循環は改善されると考えられている、このような原理に基づき我々は局所的な器官の異常や病気のみ、治療をするのではなく、体全体を評価し不正常な状態を正常な調和した状態に引き戻す事を目的に治療を行っている。

良導絡と APPLIED KINESIOLOGY を取り入れ、新しく考案されたのが良導絡ダイナミック・キネシオン療法である。

## 骨粗鬆症の症例報告

患者名：M.A、性別 女性、年齢74歳

主 訴：腰痛 (急性のギックリ腰)

症 歴：平成5年12月24日突然腰の痛みにより立つことが出来なくなり1週間余り寝たきりの状態が続きその間近所の医院に診察依頼、主治医より注射・鎮痛剤等を投薬を受けるが、胃の痛みを覚え薬を中止する。翌年1月4日に当治療所に依頼を受け、出張治療で痛みは約半分に軽減し、自力でトイレに行けるようになる。

検 査：◇腰椎X-Pの診断では椎体の変形、骨粗鬆症の所見と側弯症が認められる (図3参照)。  
◇治療前の良導絡チャートによるとH4・H5↑F5・F6↓が認められる (図4参照)。  
◇筋肉検査では「大腰筋、大腿四頭筋、腹直筋、梨状筋、広背筋」等の筋肉が弱い反応があった。

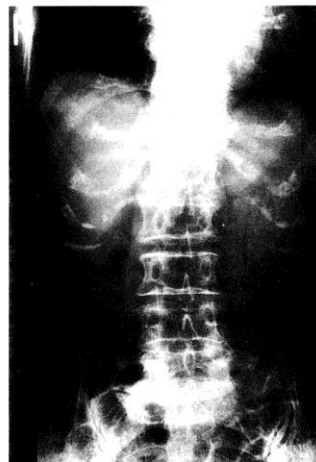


図3 治療前腰椎X-P

## 治療及び経過

筋肉検査及び、良導絡キネシオン療法のソフトにより指示されたアーターに純度の高いゲルマニウムの半導体を貼付し操作法、健康復活機 (西式) を併用した (図5参照)。

約3カ月間週2回の治療を行い、以降は経過良好のため、週1回の治療に変更し現在継続治療中である。治療後の良導絡チャートでは治療前のチャートで示すパラッキは改善されている (図6参照)。痛み軽減後の腰椎X-P示す椎体の変化は進行しているが、側弯は改善方向にある (図7参照)。



図7 治療後腰椎X-P

## 考 察

良導絡・ダイナミックキネシオン療法とは、良導絡を応用し、正確な情報を判断し、内外の環境に応じた人体の変化に、合わせ治療を行うものである。

又その治療効果を判定することが出来、今後の応用と研究が期待される。

治療器材：今回使用した半導体は厚生省承認番号 (58B) 第762号 (有) 日本ゲルマニウム研究所の純度高い (99.9999%) 製品を使用した。

検査器械：良導絡・NEUR・メーカー NEC、PC-9801RX、NEC、PC-KD854nを使用する。

参考資料：日本キネシオン協会教育資料より抜粋。